

教育・研究業績書

<b>所属名</b> 国際教育研究施設 基盤教育センター 人文科学室(独語学)		
<b>&lt;教員の紹介&gt;</b> 准教授 寺門 伸		
<b>I 教育活動</b>		
<b>教育実践上の主な業績</b>	<b>年月</b>	<b>概要</b>
<b>① 教育内容・方法の工夫（授業評価を含む）</b>		
1. 学生の知的興味喚起・学習意欲向上への取り組み	2004年5月～現在	ドイツ語は基本文法とその応用（リーディング・リスニング・ビデオ会話教材など）の二本柱で進めているが、言語そのものの面白さを伝え、かつドイツ文化について適宜情報を与え、ドイツそのものの理解が深まるよう工夫をしている。
2. 学生のニーズ・理解度を把握し、それに対応するための試み	2004年5月～現在	定期的に（各学期に1度）アンケートを実施して、学生の理解度を測定し、学生が何を求めているかを把握するようにしている。最近では文字や言葉による説明だけでは講義内容を理解するのに困難を感じる学生が多く、特に宗教学では写真やイラストや図版を配布して、宗教の世界をイメージとして捉えることで、少しでも身近なものに感じさせるよう努めている。
<b>② 作成した教科書、教材、参考書</b>		
「宗教学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」の教材作成	2004年5月～現在	宗教学は決まったテキスト・参考書はなく、毎回講義プリントと参考資料を配付。各学期ごとに10回分のプリントと参考資料を用意するが、常に前学期の講義の反省点を反映させて、学生にとってよりわかりやすいもの・興味を引きそうなものを提供するよう心がけている。
「ラテン語入門」の教材作成	2004年5月～現在	少人数ゼミ「ラテン語入門」は、「初級ラテン語入門」（有田潤、白水社）をテキストにしているが、名詞と動詞の変化一覧表と身体の各部分を表すラテン語名詞の一覧表を作成して配布。

③ 教育方法・教育実践に関する発表、講演・その他教育活動上特記すべき事項

宇都宮国際交流協会主催の「市民のための英会話」講師

年に2シリーズ開催（不定期）で、各シリーズのうち1回を担当

宗教用語（たとえば「輪廻転生」「悟り」「お祓い」「汚れ」など）を英語でどのようにいうのかを解説するとともに、東照宮の宗教的意義を理解するため、日本の宗教（特に仏教と神道）についての概論を講義。

## 教育・研究業績書

所属名	職名	氏名	
国際教育研究施設 基盤教育センター人文科学室(独語学)	准教授	寺門 伸	大学院の研究指導担当資格 無
Ⅱ 学会等および社会における主な活動			
2004年5月～現在	日本独文学会員		
2004年5月～現在	宇都宮 SGG クラブ会員 (副会長)		
2007年4月～現在	英語コーパス学会員		
Ⅲ 研究活動			
【学位論文】			
【著 書】			
【原 著】			
和文			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 寺門伸：「システム代表形」という考え方Ⅰ——主文と副文、時称——. 獨協医科大学人間文化系・自然文化系部門紀要 28: 13-26, 2005.</li> <li>2. 佐藤利哉, 寺門伸, 頼母木孝子：2004年度生を対象としたTOEICスコアの追跡調査と分析. 獨協医科大学人間文化系・自然科学系部門紀要 28: 1-12, 2005.</li> <li>3. 寺門伸：「システム代表形」という考え方Ⅱ——名詞の性・数・格の代表形——. 獨協医科大学語学・教養科目紀要 29: 25-42, 2006.</li> <li>4. 佐藤利哉, 神谷昌明, 寺門伸：英和辞典におけるSymptomとSignの定義に関する考察 —小学館BNCによる検証に基づいて—. 獨協医科大学語学・教養科目紀要 29: 1-23, 2006.</li> <li>5. 寺門伸：同等比較形式による最高級表現. 獨協医科大学語学・教養科目紀要 30: 13-27, 2007.</li> <li>6. 佐藤利哉, 寺門伸, 頼母木孝子：2004-2006年度生におけるTOEICスコアの比較分析. 獨協医科大学語学・教養科目紀要 30: 1-12, 2007.</li> <li>7. 寺門伸：ベルクソンと関口文法. 獨協医科大学語学・教養科目紀要 31: 23-36, 2008.</li> <li>8. 寺門伸, 佐藤利哉：否定疑問文に対する日本語と独語・英語の考え方の相違. Claritas (愛知教育大学英語英文学会発行) 21: 80-98, 2008.</li> </ol>			
【症例報告】			
【総 説】			
和文			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 寺門伸：ドイツ語単語／熟語研究 (8). 獨協医科大学人間文化系・自然文化系部門紀要 27: 65-106, 2004.</li> <li>2. 寺門伸：ドイツ語学エッセイ集 (8). 獨協医科大学語学・教養科目紀要 30: 29-56, 2007.</li> <li>3. 寺門伸：ドイツ語単語／熟語研究 (9). 獨協医科大学語学・教養科目紀要 30: 57-84, 2007.</li> <li>4. 寺門伸：ドイツ語単語／熟語研究 (10). 獨協医科大学語学・教養科目紀要 31: 37-68, 2008.</li> </ol>			
【そ の 他】			

教育・研究業績書

<b>所属名</b> 国際教育研究施設 基盤教育センター 人文科学室(英語学)		
<b>&lt;教員の紹介&gt;</b> 講 師 佐 藤 利 哉		
<b>I 教育活動</b>		
<b>教育実践上の主な業績</b>	<b>年 月</b>	<b>概 要</b>
<b>① 教育内容・方法の工夫（授業評価を含む）</b>		
1. 学生の学習意欲向上への取り組み	2004年5月～現在	リーディング教材は実践的な読解力を養うのに適したものに限り、さらに学生の知的好奇心に訴えるようなトピックのものを幅広い分野から選りすぐっている。
2. 授業の双方向化への取り組み	2006年4月～現在	授業で回収したワークシートや口頭で寄せられた質問などを分析する。これによって学生の理解度を把握し、以降の授業展開の参考とする。また、合理的な要望があった場合には対応する。
<b>② 作成した教科書、教材、参考書</b>		
「メディア英語」の教材作成	2004年5月～現在	「メディア英語」（少人数ゼミⅠ）の教材として英字新聞の見出しの用例を系統的に収集した資料を作成。
「英語ⅠR」の教材作成	2006年4月～現在	「英語ⅠR」の補助教材としてワークシートを作成。リーディングの教材とともに配付し、教材の内容に関するクイズ形式の課題を与えている。
<b>③ 教育方法・教育実践に関する発表、講演・その他教育活動上特記すべき事項</b>		

## 研究業績書

<b>所属名</b> 国際教育研究施設 基盤教育センター人文科学室(英語学)	<b>職名</b> 講師	<b>氏名</b> 佐藤 利哉	大学院の研究指導担当資格 無
<b>Ⅱ 学会等および社会における主な活動</b>			
1994年 9月～現在 2004年 7月～現在 2004年 10月～現在	愛知教育大学英語英文学会運営委員 日本医学英語教育学会員 英語コーパス学会員		
<b>Ⅲ 研究活動</b>			
<p><b>【学位論文】</b></p> <p><b>【著 書】</b>          和文          1. 井上真紀, <u>佐藤利哉</u>: Lifesaver—Basic English in Medical Situations. マクミラン・ランゲージハウス: 1-117, 2005.</p> <p><b>【原 著】</b>          和文          1. 井上真紀, <u>佐藤利哉</u>, 片岡由美子, 原 大介, 神田和幸: 看護の現場で必要とされる言語についての調査と分析. 中京大学教養部教養論叢 45: 129-154, 2004.          2. 井上真紀, <u>佐藤利哉</u>, 神田和幸: コミュニケーションから見た国内看護事情の改善の必要性. Journal of Medical English Education 5: 55-62, 2004.          3. <u>佐藤利哉</u>: 1・2年生を対象としたTOEIC Mini-Testのスコア分析の報告. 獨協医科大学人間文化系・自然科学系部門紀要 27: 53-64, 2004.          4. 神谷昌明, <u>佐藤利哉</u>, 神田和幸: 定型表現if it were not for再考 —小学館BNC Onlineを利用して—. 中京大学教養部教養論叢 46: 1-29, 2005.          5. <u>佐藤利哉</u>, 寺門伸, 頼母木孝子: 2004年度生を対象としたTOEICスコアの追跡調査と分析. 獨協医科大学人間文化系・自然科学系部門紀要 28: 1-12, 2005.          6. <u>佐藤利哉</u>, 神谷昌明, 寺門伸: 英和辞典におけるSymptomとSignの定義に関する考察 —小学館BNCによる検証に基づいて—. 獨協医科大学語学・教養科目紀要 29: 1-23, 2006.          7. <u>佐藤利哉</u>, 寺門伸, 頼母木孝子: 2004-2006年度生におけるTOEICスコアの比較分析. 獨協医科大学語学・教養科目紀要 30: 1-12, 2007.          8. <u>佐藤利哉</u>: スポーツ記事の見出しに用いられるWL構文の動詞とその特性. 獨協医科大学語学・教養科目紀要 31: 1-21, 2008.          9. <u>佐藤利哉</u>, 神谷昌明: 中英語のDebonaireと現代英語のDebonair—原義の変化と現在の用例—. 愛知教育大学英語英文学会 CLARITAS 21: 23-45, 2008.</p> <p><b>【症例報告】</b></p> <p><b>【総 説】</b></p> <p><b>【その他】</b></p>			

教育・研究業績書

<b>所属名</b> 国際教育研究施設 基盤教育センター 人文科学室(数学・統計学)		
<b>&lt;教員の紹介&gt;</b> 講 師 藤 田 亮 介		
<b>I 教育活動</b>		
<b>教育実践上の主な業績</b>	<b>年 月</b>	<b>概 要</b>
<b>① 教育内容・方法の工夫（授業評価を含む）</b>		
1. 中間試験及び小テストの実施	2008年4月～現在	授業の理解度をチェックするため、区切りのよいところで小テストあるいは中間試験を行っており、学生の理解と学習の一助としている。
2. 定期試験答案の返却及び解説会の実施	2008年7月～現在	受講学生に対し、定期試験答案の返却と答案解説会を実施しており、間違えた所を指摘すると同時に、正解を提示し再確認させている。
<b>② 作成した教科書、教材、参考書</b>		
少人数ゼミ「初等整数論入門」冊子作成	2008年11月	ゼミで使うオリジナル教材を冊子体にして、受講学生全員に配布した。目次やセクションを見やすく書き込み、各自が全体の流れを把握し、学習しやすい体裁にまとめた。
<b>③ 教育方法・教育実践に関する発表、講演・その他教育活動上特記すべき事項</b>		
おもしろ理科・数学実験隊：第2回研修会 「錐体の体積はなぜ $1/3$ をかけるのか」	2008年8月	独立行政法人科学技術振興機構「平成20年度 理数系教員指導力向上研修事業」の一環として、学外の教員と協力して、研修会を開催し講演した。

## 研究業績書

<b>所属名</b> 国際教育研究施設 基盤教育センター人文科学室(数学・統計学)	<b>職名</b> 講師	<b>氏名</b> 藤田 亮介	大学院の研究指導担当資格 無
<b>Ⅱ 学会等および社会における主な活動</b>			
1994年6月～現在	日本数学会員		
<b>Ⅲ 研究活動</b>			
<p><b>【学位論文】</b></p> <p>欧文</p> <p>1. <u>Fujita R</u>: On the geometric module associated to finite complexes with a finite group action. (Thesis) 1-28, 2006</p> <p><b>【原 著】</b></p> <p>欧文</p> <p>1. <u>Fujita R</u>: On the lefschets module. Hokkaido Math J 36:111-120, 2007.</p> <p>2. <u>Fujita R</u>: On the universal burnside module. Hokkaido Math J 36:121-127, 2007.</p> <p>和文</p> <p>1. <u>藤田亮介</u>: 数学における“わかる構造”について =関数領域を中心に=. 岐阜聖徳学園大学教育学部教育実践科学研究センター紀要 6: 253-262, 2007.</p> <p>2. <u>藤田亮介</u>, <u>山口利幸</u>: 電気情報工学科における数学 ～一般科目教員と専門学科教員の共同担当による授業実践を通して～. 国立高等専門学校機構平成19年度教育教員研究集会研究論文集:319-322, 2007.</p> <p>3. <u>佐藤英雄</u>, <u>藤田亮介</u>: 群の導入 ～教員養成学部での試み～. 和歌山大学教育学部紀要(教育科学) 58: 59-66, 2008.</p> <p>4. <u>藤田亮介</u>: 教職課程における幾何学講義実践 ～近畿大学生物理工学部における幾何学Ⅰ・Ⅱ講義を振り返って～. 岐阜聖徳学園大学教育学部教育実践科学研究センター紀要 7: 77-87, 2008.</p> <p><b>【症例報告】</b></p> <p><b>【総 説】</b></p> <p>和文</p> <p>1. <u>藤田亮介</u>: 部分群複体のホモトピー同値性について. 京都大学数理解析研究所講究録 1575: 22-39, 2008.</p> <p><b>【そ の 他】</b></p> <p>欧文</p> <p>1. <u>Fujita R</u>: On the homotopy type of the subgroup complex. Proceeding of the 34th Symposium on Transformation Groups, Wakayama, Japan, November : 22-24, 2007.</p>			

教育・研究業績書

所属名 国際教育研究施設 基盤教育センター 人文科学室(スポーツ科学)		
<教員の紹介> 講 師 村 山 晴 夫		
I 教育活動		
教育実践上の主な業績	年 月	概 要
③ 教育内容・方法の工夫（授業評価を含む）		
④ 作成した教科書、教材、参考書		
③ 教育方法・教育実践に関する発表、講演・その他教育活動上特記すべき事項		



教育・研究業績書

所属名	職名	氏名	
国際教育研究施設 基盤教育センター人文科学室(スポーツ科学)	講師	村山 晴夫	大学院の研究指導担当資格 無
Ⅱ 学会等および社会における主な活動			
1997年4月～現在	日本武道学会員		
2000年4月～現在	日本体育学会員		
2001年1月～現在	日本オリンピック委員会(JOC)強化スタッフ(情報・戦略)		
2001年1月～現在	(財)全日本柔道連盟強化委員会情報戦略部員		
2003年4月～現在	NSCA ジャパン(National Strength & Conditioning Association)会員		
2006年4月～現在	特定非営利法人(国税庁認定)柔道教育ソリダリティ会員		
Ⅲ 研究活動			
【学位論文】			
【著 書】			
【原 著】			
和文			
1. 林弘典, 小野沢弘史, 岡田弘隆, 南條充寿, 久保田浩史, <u>村山晴夫</u> : 柔道競技における主審・副審の投技の同時評価に関する調査研究. 武道学研究 37:11-20, 2004.			
【症例報告】			
【総 説】			
【そ の 他】			
和文			
1. <u>村山晴夫</u> : “柔道” に科学的側面からアプローチする. 月刊武道 Vol. 455, pp132-137, 2004.			
2. 中村勇, 小俣幸嗣, 菅波盛雄, 南條充寿, <u>村山晴夫</u> : 柔道強豪選手のデータベース構築. 第2回JISSスポーツ国際会議2004プログラム・抄録集 No2, p65, 2004.			
3. <u>村山晴夫</u> : アテネオリンピック柔道競技. 柔道 Vol175, No10, pp4-30, 2004.			
4. <u>村山晴夫</u> : 日本代表科学サポート報告書 近代柔道 No311, p53, 2005.			
5. <u>村山晴夫</u> , 中村勇, 南條充寿, 林弘典, 出口達也, 山口香: 映像分析による競技特徴に関する検討 -2001年世界柔道選手権大会女子57kg優勝者の事例-. 柔道科学研究 No10, pp1-8, 2005.			
6. 茨城県教育庁保健体育課, 大高明子, 小林恵, 鈴木義雄, 吉野昌彦, 坂入徹, 大足かおり, 金井辰彦, 岡本三枝, <u>村山晴夫</u> , 坂田和也: 指導にすぐ生かせるワンポイント指導集(その3). 学校体育指導資料集第35集 No35, pp79-98, pp139-143, 2006.			

7. 木村広, 射手矢岬, 春日井淳夫, 中村勇, 南條充寿, 矢野勝, 林弘典, 渡邊昌史, 瀬川洋, 久保田浩史, 桐生習作, 田中勤, 村山晴夫, 中島裕幸, 奥超雄, 渡辺直勇, 佐藤伸一郎, 坂本道人, 小室宏二, 曾我部晋哉, 廣瀬伸良: 海外強豪選手の映像収集及び選手へのフィードバックシステムの確立. 第4回 JISS スポーツ科学会議 プログラム・抄録集 No4, p36, 2007.
8. 射手矢岬, 春日井淳夫, 中村勇, 木村広, 南條充寿, 矢野勝, 林弘典, 渡邊昌史, 瀬川洋, 久保田浩史, 桐生習作, 田中勤, 村山晴夫, 中島裕幸, 奥超雄, 渡辺直勇, 鈴木智裕, 坂本道人, 小室宏二, 曾我部晋哉, 石井孝法, 相田裕次, 三宅仁, 廣瀬伸良, 村田正夫, 佐藤伸一郎: 海外強豪選手の試合分析及び映像データベースの作成. 第5回 JISS スポーツ科学会議 プログラム・抄録集 No5, p59, 2008.

所属		職名	氏名
国際教育研究施設 基盤教育センター人文科学室 (スポーツ科学)		講師	村山 晴夫
展覧会・演奏会・競技会等の名称	場 所	開催日時	発表・展示等の内容等
2004年 アジア柔道 選手権大会	カザフスタン・アルマトイ	2004年5月	日本代表支援選手団(科学研究部班)の一員として派遣され、任務を遂行した。具体的な内容としては、該当競技大会における全試合映像の撮影及びリアルタイムでの選手・コーチへの映像提供作業等。
2004年 オリンピック 競技大会	ギリシャ・アテネ	2004年8月	日本代表支援選手団(科学研究部班)の一員として派遣され、任務を遂行した。具体的な内容としては、該当競技大会における全試合映像の撮影及びリアルタイムでの選手・コーチへの映像提供作業等。
平成18年度 全日本ジュニア柔道体重別 選手権大会	埼玉県上尾市	2006年9月	全日本柔道連盟からの推薦を受け、審判員として派遣された。全国レベルの大会は、公認A級ライセンスの資格保持者が審判員をする規定となっている。この大会のそれに該当する。
平成19年度 全日本ジュニア柔道体重別 選手権大会	埼玉県上尾市	2007年9月	全日本柔道連盟からの推薦を受け、審判員として派遣された。全国レベルの大会は、公認A級ライセンスの資格保持者が審判員をする規定となっている。この大会のそれに該当する。